

平成19年度 企業内家庭教育学習講座（フォーラム）
～ 「語り合い」をとおした親育ち～

テーマ「親子のコミュニケーション」

子育てにかかる「悩みごと」「困っていること」など、あいのままを出し合う。



期日 平成19年8月22日（水）
時間 午後5時30分～6時40分
会場 栗東市高野305 三恵工業株式会社・食堂
対象 従業員17名（男性14名・女性3名）
講師 滋賀県教育委員会事務局生涯学習課課員（本庄）
参加者の年代層 20代5人 30代9人 40代3人

[大まかな当日の流れ]

開会・挨拶・研修テーマ「親子のコミュニケーション」について

三角柱自己紹介

自分の名前と「子どもの頃に親に叱られた経験（ほめられた経験）」を記入。三角柱にして一人1分程度の自己紹介（グループ別）

子どもの発達段階における心の特徴について

15歳までを4つの段階に分けて、それぞれの発達段階における特徴を確かめる。（ホワイトボード使用）

資料「親子のコミュニケーション」の朗読

子どもが反抗的な態度をとったり、イライラしたりしている時

問いかけ1 あなたはどのような態度をとりますか。資料に記入してください。

子どもが何かを言い出すまで見守る

放っておく

何か理由があるのか声をかける

誰かに聞いてもらう

話し合い1 上記の ~ に記入したことをグループで交流

問いかけ2 子どもの成長のため、親としてどのような態度をとればよいか、また、子どもの心の動きを探るポイントは何かついて考えてみましょう。

話し合い2 最初に交流した「子どもの頃に親に叱られた経験（ほめられた経験）」や話し合い1で出されたことを掘り下げて互いの思いを出し合う。

グループで出されたことを全体の場で一部紹介

まとめ

ほどよい距離感を持ち、見守っていく姿勢

決して放っておくのではなく、子どもを信頼し、外で何かつらいことがあっても、家庭に帰れば安心できると感じる関係です。

見えない言葉の理解

「うざい」「べつに」「わかんない」と言われて、「何を言ってもしょうがない」「全くいつもこうなんだから」と思わずに、少し耳を傾け、子どもの表情や仕草をじっくり観察してみましょう。「もう少しかまって」「わかってよ」「あきらめないで」「見捨てないで」「ほめてよ」という言葉に現れていないメッセージが隠れているかもしれません。

参加者の感想より

- ・子どもがこれからどんどん自我が目覚めている中で、「叱ること」と「怒ること」との差があまりわからなかったが、「叱ること」がすべてではなく「見守る」ということも大切なのだとわかって良かった。
- ・ふだん、聞くことのない人の意見を聞けたので良かった。いろいろと話が聞けて良かった。
- ・いろんな人のいろいろな意見が聞けて勉強になりました。
- ・日頃できない話もできて良かったと思います。
- ・製造課の人たちとしゃべれて良かった。
- ・男性の多いグループでしたので「お父さんの思い」を聞かせていただけました。年齢、各家庭、自分の育ってきた経緯によっても違ってくるのですが、年を重ねて「笑って帰ってこられる家」でありたいです。



- ・小さい子どもさん、またはまだ生まれていない方にとっては、これからの子育てに生かしてもらえたらいいなと思いました。
- ・もっとこの講座の輪を広げていきたい。